

再開高臺梅

一

13
3153
1



八13 外
3153
r6

八13 待
3153
1

文榮堂發兌文房書目

考槃餘事

明屠少水著
東漢源謙校

白紙摺明細線
收入全部四冊

題畫詩選

岡崎處門著

全仕立全三冊

書畫皆宜

笑癡氏撰輯

白紙摺明細線
收入全部三冊

題畫詩剛

森川竹憲著

全仕立全三冊

書舖

浪華心齋藏應橋比第五街

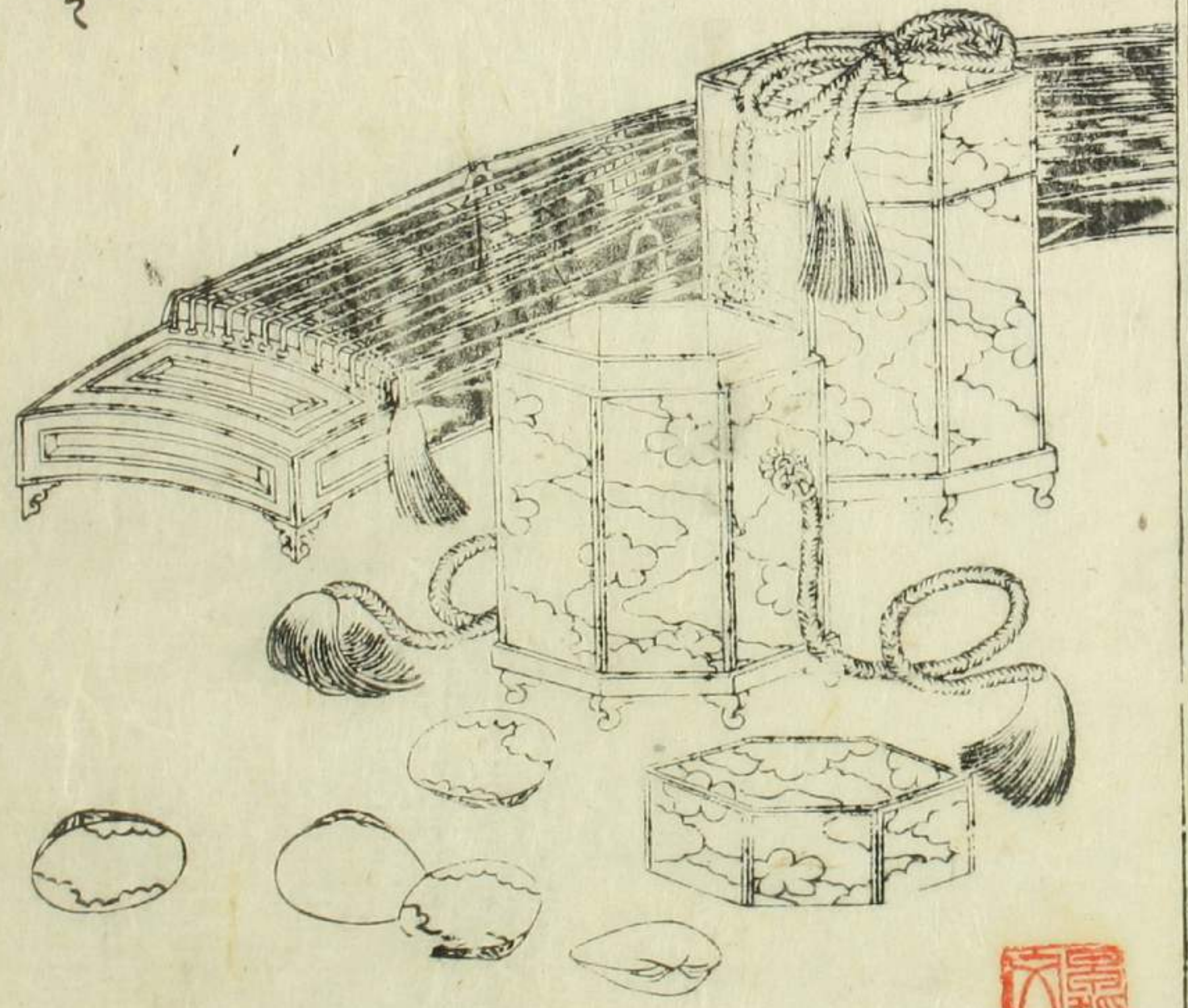
前川源七郎

發

四十六

昭和九年
九月廿日
發

夫木集
法多やり
あまのり
はらり
いあふ
ら
や



文庫



山田段右衛門

山路
越右衛門

関口
内蔵之進

高臺板巻



冬
玉
咲
や
変
成
男
子
弄

香津新左衛門娘
お志ん

高臺板巻



大和の國
 刀鍛冶清七
 後改名
 菊池主水



甲州の浪士
 後改名
 田郡藏
 須田官左衛門



足鷹山の
賊七九郎



妙昌尼

岡村傳内
奴僕
善八

高臺梅目次

卷一	赤津新在馬家系沼田郡花が傳并に郡花新在馬を討大元 布と盗と東國を趣くおえん後傳言の志と立る吏
卷二	沼田郡花河部川空堀岡村修内お連い立身して後傳内を討 立退部人馬おえん討討お趣中右系海の事
卷三	おえん嵯峨の屋室お実母お名お連并に郡花馬と傳お弓削村を 致と討りしお空宮お趣七九お連お致お山田お病死の事
卷四	おえん七九おりおおをりお木辻お多り難多連并に刀屋清七と 謀くお落仕損し古市お仕致しる事
卷五	おえん古市お多り重代の刀と取戻し駕多喜八と謀く致此 行方と立ち并に刀屋清七志國お趣く事
卷六	おえん東國お林立真津川お勇力おらふお興國寺城下お多り 本意と達と多り并に菊池お水お再會し出世お吏

目次畢

再開高臺梅卷之一

栗杖亭鬼卯著



發端

室に後奈良院御宇天文の以拾州を討の事くに香津新在
 島といふ所のうり葉が先祖と尋らよん王十七代に徳天皇親
 波津と致しりし時よりれ旧家少くも後推古天皇入法代
 先祖乃豊長倭唐使と選り唐士より事奉之に都
 天をれ御時帰朝とて後皇親親移り多り致し子葉と経
 といふも多縁跡終る事古く今何れかお家柄多り今も
 新在島お実の人より文武二ツ伝系承けよ家多るよ一妻お泉
 別奉和回吉也仙哲といふ大醫此娘よりて妻婦睦し

若くは後代の家系小主、高臺榎のついでに主人の位に
 叙し、軍学ありて、國光一統、父系、母系、忠臣、女二乃男
 子、まは、こゝろ、新なる、心、け、又、う、れ、お、と、目、と、け、は、ひ、く、り
 ぬ、る、よ、い、か、る、ゆ、に、四、十、九、年、も、一、ふ、ろ、ろ、と、事、と、憂、へ、ま、は
 け、り、程、く、と、清水の親母、音、よ、歩、り、と、ま、ひ、一、子、成、換、は、
 け、れ、と、丹、誠、と、こ、ら、し、ま、婦、初、ま、せ、し、と、式、的、い、は、も、の、こ、
 新、左、馬、助、と、記、出、て、親、母、音、へ、奉、侍、せ、ん、と、お、ま、れ、は、清
 水、寺、の、こ、こ、歩、り、よ、月、光、寺、の、教、う、け、よ、小、見、の、泣、く、急、園、へ
 ぐ、れ、へ、不、思、義、よ、思、ひ、ま、あ、る、れ、ば、當、座、の、水、子、と、給、よ、色、布、女
 美、う、ら、ん、と、せ、捨、て、け、り、新、左、馬、助、思、ひ、中、へ、これ、と、目、に、
 なる、親、母、音、善、善、清、某、よ、一、子、と、換、わ、る、る、ん、人、目、よ、け、ら、る、

事、い、つ、う、と、懐、入、る、宿、亦、よ、ゆ、と、妻、よ、右、の、親、也、し、
 女、房、も、大、に、怪、い、懐、う、り、お、し、る、た、玉、の、ご、と、女、子、鑑、冊、係
 捨、置、し、し、ば、う、り、る、人、の、よ、お、ん、こ、を、偏、よ、親、名、の、授、多、る、よ
 ろ、れ、は、切、末、な、り、と、掌、中、の、珠、と、う、け、は、ま、名、と、お、縁、と、
 乳、母、と、付、て、養、育、し、月、よ、花、よ、と、親、邊、し、お、身、の、老、け、事、も
 思、い、け、い、子、れ、成、ま、成、け、る、宿、友、よ、又、水、州、榎、の、湊、よ、兼、他、の、一
 親、兼、他、右、と、し、て、け、り、豊、後、と、給、し、る、兼、他、の、門、葉、は
 軍、家、も、内、自、見、る、一、家、家、兼、兼、家、族、も、多、く、何、れ、う、ら、ぬ、武
 士、ら、う、妻、の、系、統、を、以、て、行、系、の、娘、と、て、容、色、他、に、傳、へ、ら、ぬ、や
 一、く、右、近、と、支、婦、の、中、睦、ま、く、一、子、成、り、く、る、に、お、れ、と
 一、つ、四、方、子、も、ま、は、女、人、の、悦、ん、と、ち、ら、ら、ん、名、以、清、く、物、と、号、慈、と

肩より香付新た妻の代り思家ありて右邊と茶
 道とぬく新た妻のけ道と妻とくまの打たは塔よりま
 一昨日止宿して茶屋と論し合席と候し一昨日新た妻
 妻嫁も打更貝合とほして抱ひ居る新母もお嫁と抱て
 とも貝と度いふ右邊新た妻も合席一妻うこのし
 然るうと打更て貝と度いふ右邊乳母が抱ゆる縁と
 つくく見て扱く新た妻も見ふ成人の後の揚貴所
 まもたのまも某も道に子供をけゆる是下の家某う
 家物代り回家おまごもこれ縁と結び一事もさかく
 まよ連絡とお續とる事申く容易なるふらけはま
 系が男子と今より三男行し一成人の嫁婿とせ西家

の内次男か生乃方より名跡とまご一新た妻の心
 けりよ侍りとむるよ新た妻の使婢大は候し手に申さ
 家柄け方分新た妻のまごよた室入事の娘とまご貝合
 の行ふ女君よまごまご一娘も肌よ白させと婿婿のまご
 緒よまごまご一貝のけと右邊と渡せば是ハ一舟の事
 貝合とまごも昔妹嫁のかまごひかまごまごまご
 かまごまごまご酒汲かまごまご親教の睦まごまご
 ぶごもの成人と侍り侍るに天文九年庚子の年天下
 候し新た妻の別け大清あり民家悪く海中小波し
 系るくまごの家殺とまごまごは兼池右邊が屋敷も漢に
 けりまごまご大清ありて家人も竹園のけりまごまご

くらばいり香は新左妻の方へ因へ周章人こそあらば右遊と
 家莫逆の取付に一子流る事幸の娘お縁と云号せしもの
 ちかにか人とも流失も事誠は天運といふちかづり流るき
 ぞ乃もさうはやくと婢流るるさういふは美池の幼子いふさ
 や後の幸とさういふ

新左妻が隣家江田新左の傳

誠は里老の移り新事たりもあり新左妻が娘お縁こに十六
 才に成るる天のおせはいつくさんさういふはくは智系行の
 及より少くくば父母は老ふ流るれば新左妻も娘が存しつ金と
 費し諸病とせむいせ衣裳の物好とのと主婦ともい合せ結ぐと
 ともよく色と思ふ親んくも存理もさういふ又新左妻が隣家

江田新左とつる浪人けり故ハ甲列武田家此家臣たりしが
 場より物見はは換りそれた浪人して今ハ大坂より侍の辺に
 ありれ不縁と承ぬ御術乃指もして書せしが兼子も次子よ
 付今ハ女流ゆるやりに送りしが新左妻ハ此ハ隣家不取易
 用帳のさし書ふとありておと他よりか流るるさういふ日夏
 日総展して書は圍るるさういふ新左妻一同とて歌ふと用平
 と見一書り馬具不せまうと飾をきり新左妻新左妻の書て
 浪石古きと御家柄流りて野衣の及具く時上服の上服は服
 物と書流るる蓋よ入舌一物ハ何よいおとるるれば新左妻書て
 乃の取家未先祖道豊臣推古の内守捨唐使小流御新の長
 侍来り火浣布と一物と南方の島よ火山けり懸然山と



香津新左門尼寺の
わらわ子な格う図

いろきこ火焼けの洞けり中よき火焼けり色まじし
 とも色とりつ織る火焼中よき火焼けり色まじし
 おろし屋の箱とより見るとにまじく何とも志まぬ地合にて
 けりつり火焼けり中よき火焼けり色まじし
 水石焼けり色まじし今が初め也何程中
 疾く色とりつ織る中よき火焼けり色まじし
 中よき火焼けり色まじし今が初め也何程中
 も焼ぬものし色まじし今が初め也何程中
 初焼も焼ぬものし色まじし今が初め也何程中
 名産又し色まじし今が初め也何程中
 干の初め也何程中今が初め也何程中

家々に仁徳帝より今よ連絡してせしむる帝の御
 宝物殺けり中よき火焼けり色まじし
 今今二八の嫁入盛をせし系家より中法正しき聲録りて某
 隠居さんと思ふなり女房は何思ふよ女房もいさな
 何のあり右近殿よき色まじし今が初め也何程中
 今今二八の嫁入盛をせし系家より中法正しき聲録りて某
 今今二八の嫁入盛をせし系家より中法正しき聲録りて某
 今今二八の嫁入盛をせし系家より中法正しき聲録りて某
 今今二八の嫁入盛をせし系家より中法正しき聲録りて某

新左衛門不興一輩此た道大清一々以東怒りけるりたり十
 年今よき死のそと園に正しく魚腹に葬りておまじはら
 ころまてけりて結く海幸初婆小所のこく老りて年以
 得るしそけりてつるつるやねよた道より結納とけりしもけりけり
 こつてうづげとつるよ母ハ氣の毒よ思ひ娘がやむ女のみか
 まば志ぬく怒りるよハ僻まよけりし人まて今年中ハ聲
 のみ死ん命た道敵のゆ束と妻く尋させそしよけり法
 こゆ死失あらふたせいの家柄をまハ明年ハ聲がゆとぬく
 娘ハ母がかくつよとハ遠宵ハけりまてと理非をふての詞よお縁
 もんよハとらまもよも志るが今年中ハん合てふいふとゆさ
 おつらけりてれよ新左衛門ハ内く聲と尋るべ

將軍孫と集め入浴田形荒居村借内小封面の伝

將軍孫と集め入浴田形荒居村借内小封面の伝
 今以發列國府の城を今川新左衛門威勢とよふ平晉三將軍の
 元もやごころんハ各を旗下小隊ハ東國よとてふた名もさる
 々らい家士小島村借内といふものけり柴八元甲列武田家小姓に
 けり柳のりあて甲列武田を退今川小隊して七百とて領けり元
 の時一伽よむかふ式とよむ元借内よ向ひやさなハ長孫
 と名けて東國よ威勢と表したる志けりけりてあり
 當時亦初將軍名初孫と好まうふよりて存けりる名者
 孫名は初とよむ家も何ぞ名よ威感よ新らんと思ひも見あ
 ると思ふなり一何ぞも當世又あそぶ所見得るや一やと價のり
 ハ是よむとふり一けりもこれハ借内傳るべしとより初とけり

高田松卷之二

殺多しは中へ色何の品もは佐人の目録(録)將軍の御
 威振(威)事(事)行(行)るまじくは系結(系)吟味(吟)仕(仕)るべしと由(由)信(信)中
 文(文)より不(不)わくも御(御)と承(承)録(録)るといふもお怒(怒)の品(品)もかくんは
 旁(旁)へは信(信)然(然)るよそ年(年)今(今)川(川)家(家)より將(將)軍(軍)家(家)へ書(書)信(信)の款(款)と
 信(信)内(内)の候(候)と書(書)り上(上)原(原)してそ尾(尾)能(能)款(款)とお納(納)りお取(取)扱(扱)さじ
 て由(由)取(取)下(下)されま由(由)道(道)田(田)の愚(愚)味(味)とるる小(小)徒(徒)て久(久)く書(書)信(信)
 せざらば田(田)取(取)能(能)書(書)信(信)傾(傾)ておるるを軽(軽)しと呼(呼)留(留)させ承(承)取(取)より
 主(主)柄(柄)は取(取)能(能)見(見)るは信(信)内(内)をくくし斗(斗)輕(輕)し御(御)も
 一(一)が良(良)らうて取(取)能(能)中(中)々のハ扱(扱)く面(面)目(目)もお取(取)對(對)面(面)甲(甲)府(府)と
 てハ水(水)魚(魚)の更(更)りとかせしも先(先)今(今)ハ何(何)方(方)も取(取)能(能)もくやと
 まら信(信)内(内)も横(横)手(手)と打(打)さしはくは系(系)斗(斗)らばも今(今)川(川)家(家)は

官(官)一(一)祿(祿)七(七)石(石)と令(令)し有(有)付(付)能(能)書(書)るは信(信)内(内)と取(取)能(能)も
 と赤(赤)ら面(面)目(目)もかきい方の上(上)甲(甲)府(府)と之(之)退(退)任(任)く漂(漂)泊(泊)し今(今)は
 かせ一(一)事(事)もかく大(大)坂(坂)もは信(信)内(内)と業(業)ハ取(取)能(能)せしもあかハ
 たるさば細(細)柳(柳)の指(指)もよそ信(信)内(内)と取(取)能(能)もくやと取(取)能(能)しは
 信(信)内(内)つぐぐと聞(聞)きた中(中)々(々)も弱(弱)きも取(取)能(能)思(思)ひのうかを
 と又(又)は信(信)内(内)も信(信)内(内)と取(取)能(能)しは信(信)内(内)と取(取)能(能)しは信(信)内(内)と取(取)能(能)しは
 今(今)川(川)家(家)取(取)能(能)天下(下)の事(事)も取(取)能(能)しは信(信)内(内)と取(取)能(能)しは信(信)内(内)と取(取)能(能)しは
 一(一)家(家)の取(取)能(能)しは信(信)内(内)と取(取)能(能)しは信(信)内(内)と取(取)能(能)しは信(信)内(内)と取(取)能(能)しは
 んと付(付)く由(由)も取(取)能(能)しは信(信)内(内)と取(取)能(能)しは信(信)内(内)と取(取)能(能)しは信(信)内(内)と取(取)能(能)しは
 花(花)ふと香(香)は取(取)能(能)しは信(信)内(内)と取(取)能(能)しは信(信)内(内)と取(取)能(能)しは信(信)内(内)と取(取)能(能)しは
 大(大)浣(浣)布(布)と中(中)取(取)能(能)しは信(信)内(内)と取(取)能(能)しは信(信)内(内)と取(取)能(能)しは信(信)内(内)と取(取)能(能)しは

つりと檢唐使の船の品は傳來せし事と一し味もは傳内たる候
ひそまに彼新なる事より上とせらまはよきもれば成功のつるもえ
あまに執成して主人と抱と成とまは昔の朋友と成一つは主人
一働もお成事ありと申すぞ新なるたは候び斗らばも今日也
目よりそのわけの由味来るもいまも衣運よそぞふ志し志の訳
新なる事より味かか否と申す中申すはか申す候と申す合中下
是ハ其者宿所の書付ありと失之れおし眞紙と認渡し
夕陽傳内候び傳事申す候と申す入候し折角堅固より換振し
多別多候新なる事より身の前か来りて又もよきと申す候て
船よ着と候び大坂よりて下り候
新なる事より火浣布と申す候

斯くては傳内候び傳事申す候と申す入候し折角堅固より換振し
多別多候新なる事より身の前か来りて又もよきと申す候て
船よ着と候び大坂よりて下り候
新なる事より火浣布と申す候

高橋屋書卷二

二二

何れらん掛るる身は度外の中は他はもと家と秘し
 重れていふ又ありて家と徒に埋むるは今川家へ上り
 およみ將軍家の内園より進んで内直末より進んで
 て大洗布と今川家へ取かへて已が掛るがちあるを
 まは新左衛門とひそめはくく園藤の中なるおのち
 さうく候も一候彼も目外の中へ先祖より傳来す
 いさきの事よても外へおひかへて事お成る中へ
 足利將軍政と和源の名義と内直末の時先祖新左衛門
 大洗布の義おひかへて作中より内直末と事進んで
 るとと中より一先内上洗布より進んで事進んで
 く候も一候十日申内直末と進んで後内直末より進んで事進んで

おのちおのちの事よても外へおひかへて事お成る中へ
 足利將軍政と和源の名義と内直末の時先祖新左衛門
 大洗布の義おひかへて作中より内直末と事進んで
 るとと中より一先内上洗布より進んで事進んで
 く候も一候十日申内直末と進んで後内直末より進んで事進んで

おのちおのちの事よても外へおひかへて事お成る中へ
 足利將軍政と和源の名義と内直末の時先祖新左衛門
 大洗布の義おひかへて作中より内直末と事進んで
 るとと中より一先内上洗布より進んで事進んで
 く候も一候十日申内直末と進んで後内直末より進んで事進んで



沼田郡蔵
火尻布を
うぐいし取
新左五門
を討て
立退く

林義春

とも果に然として「あま」まん易くお入せし新左妻方あま行
 とやらんをまに疎をふぬるお花後府岡村信内方より
 書状副本一先自ら作交ひ火浣布の事主人元と成り
 之の信の外候び一刻も早く賞方よりきてそ方のそ庵と
 結ぶし思貴うてお秩之百八と在抱らるしとの義持志
 にも頼らば作の事少くまはしお子甚主人一おゆる火浣布
 子におお承るは要御のまをよの久辨するもお花後大
 又頼るに頼る急なる信内が五年うかけ方々一急の左志
 もるにうらより付の知りまてお極る事今更先方あま
 せし不念点波さぬともまもせは危せん角せんといひ
 しが元よりまの身は眼々しくお花後をよと石元よりお花

との事よんまのい忽悪んささしけし信内一けりよ
 改之と此の士あまの偽者といひまらんす口信と事ありん志れ
 とも宝花あま（忍入盗）つて欠落し後府へ立越んまのと一念
 起りしよりそれれく五書と認道日火浣布持来りた
 中きしを後折らるる忍入盗おさんとんをぬるしを恐るあま
 ありげやん款の私ゆへとを者今と始ぬ事さう後回
 しと事どもありけし神を月いしと時取らるる文る
 著新左妻方ありけしおの先祖の五十年忌として法をて管
 と基不りの徳代の家来志を御助左妻つ彼を以係とやと科
 理極園あましく初おとことまらりしゆの折る御田あま
 花はそそ天のけりありそ上る風烈しくけりあれけり

中室のへい久彦の長持袴と袴切内はくらはふりゆといふ女
 房もこれに付扱ひらの火洗布と益糸一糸を敵の隣の沼田孫藏と
 知り合ふその子ゆいけりまうてけ室とかゆつと「勅」は新た美敷
 一和しうらもあひしゆりしう身の愁よまひまど害一棄ひ
 去退しとあをんとし自家来ども隙（まひ）見てはまひいつの間
 ころハ初彦ハ備及具と月付の方志と進く表来るよ嫁て款
 ハ初彦と志りて款悲より大方あはれを内一自家来か初せよ依て奉
 和田吉也仙哲と来り一園を然傷してうらうらう勢てハ果
 と野をよまう各流うう受とほしそ上初彦あよひ中しそ方致
 奉勤る奉るまはれをいふかといふも女斗たは色はんをひる
 一し尚も後家おしと孫お縁の家お方（引）お熱の聲と園

中一お續させんをまことへそ方家守してはるべしと駕よ茶岸和回
 ぬりくハ初彦あ多くの家来し暇とをき一兵主人明家と守り（遣）る
 生ん不滅の形とふをあうううてがり一奉るもかり
 お縁復讐の志とる作
 けりてま吉也仙哲ハ初彦あ後家娘と初し志は縁聲とえて番付
 の家とまんと不々聲と園合せましもお縁はさうに交引は平々款
 ハ沼田孫藏と志りかうしそ縁生をく奉行方口惜りかはねやぬ家
 男子あはれをねより仇討し出づまようくうくくと祖父の方よ養
 けり奉のそまふもけり家ゆハ捨ひ子と園あまハ程更家実の子
 けりハ女まうくも款と討しまよ捨ひ子ゆまうはあして聲とる
 けんくんと書かど人ハ後捨まらんりの口惜さうのまうまうも款と

奴の昨罷りもるせし大欵女の方にて申く榊のより思ひもる
 ぞ只佛神の方もしてはあまきと逢ふ事あるまゝと一心と思ひ返す
 よう河内の國志貴山毘沙門天より新抄とて七日即食して奴
 上達する方力とていひえと形ひくるこそ御掃りも七日送る
 敷の差よむとて通りし二ツの牛角と角と瓜合せ争ふと双の
 とつて引割ると着て見えぬ縁を差と人思ひ家よ力
 なるは三度ふるとんご納め敷の暇は成りて居よしてと洗
 河内の方とていへ傍とていへ仙哲が産業よと三尺の御の
 極よつとつと夕暮の差よむとていへ引抜刀とていへ
 振袖よとて大木の程とていへ引抜いへん安く大根状
 扱より安んじい毘沙門天の利生りりし思ふと略てとて人

何事限りもる何事ぬれとて人とて碎くよと
 回藩中よ関は内蔵をとり人吉中仙哲と兼入魂とていへ
 癩氣のよ一日仙哲方業と業と業と一僕子連とていへ人
 家中一の奴術達人門前多りり村よ渥濃の君子たるもいへ縁
 何とていへ人よ仙術とていへ人と日兼んとていへ女の方よ
 使もつとていへ仙哲よとていへ或日又内蔵をを来らま
 仙哲病用として取らまといへ縁業とていへと持出るるの
 扱扱とていへ関は不審がよ縁と縁と元い見馴ぬ婦人ありり
 ようけ方よ居るると尋らよ縁全とていへ奴家よとていへ仙哲
 縁と申者大坂表番は動左妻あり娘よいとつと内蔵を打た
 るるわとていへ番付の一件仙哲老より兼り縁入喰ぬ仙哲婦人

誓くけ方よ運命もやしつよお縁の結折とる難き水戸大坂
 表れる水戸の上の限とよ及ぶれは付らるるくよ水戸と云
 水戸をんとつよ内蔵の進賢とむすめ婦人の素よ新らいつある事
 小也先中て見らもよと何んかき養へまお縁とこと改め取
 へかおひ何れも細術の指南よ新らとと思ひもく新れば
 内蔵とを誓く物もよきくつうくうの彼がんとお家この
 思ひあつぬ新ひまをくゆををりつての事と推察いし
 こといひくよもんゆゆる志けけ不へまう指南とるとさハ人の
 目よを匿くるは幸業が娘をそ元と同奉位よもまハ家
 方引名女の志つけやも同じくまおさんときて引とら下けりや
 限密よせしよとを合る不へ若世仙哲を返さハ園は一通の

扱投して扱お縁が事日言は引名進しは幸家お娘何角
 不調法もこの縁との指南よ新ら後し誓く水戸下さしとら
 ことハ仙哲もお縁年以よ成ぬまハ町家よつうて浮名きて
 ハ後悔せん若堅と園は氏と新らハさの屋竟の事なりと取ま
 ことけ方水戸新ひ下たおふ何分置を新とよ内蔵
 進も悦びあつハの白か考いさる下と約束しゆくまハお縁
 大い悦び是偏よ志貴山の鬼沙門天の内利生をんとおま白か
 園はの方引移り日取細術指南古とらに一心疑らお縁を上鬼
 沙門が扱けり力量も中へ衆人の及不よけ一と園て十
 とあるのやもこの園はの門人内よて二三年入子業るまハ内蔵
 のしん渠が復讐の志と素一格別よんと居し秘傳のた刀筋を

高臺梅卷之一

